

共生社会システム学会ニュースレター

The Association for *Kyosei* Studies

HP <http://kyosei.digi2.jp/>

2014年10月28日発行 第11号

目 次

1. 共生社会システム学会2014年度大会が開催されました。	1
2. 第1回「運営委員会」の開催と議事内容の報告	2
3. 第1回「学会設立10周年記念事業実行委員会」の開催	3
4. 『共生社会システム研究』第9号への投稿募集	4
5. 運営委員会事務局だより	5
役員名簿(2014年8月～2016年7月)	6

1. 共生社会システム学会 2014 年度大会が開催されました。

1. 「共生社会システム学会」2014 年度の開催

さる2014年8月2日(土)・3(日)の2日間にわたり北海道江別市・酪農学園大学において共生社会システム学会2014年度大会(大会実行委員長:吉岡 徹会員(酪農学園大学))が開催されました。

初日は「大地と共生する、人・農・畜産」というテーマで、大会シンポジウムが行われました。荒木 和秋会員(酪農学園大学)と武田 庄平会員(東京農工大学)を座長として、以下の4報告がなされました。

星野 仏方氏(酪農学園大学)「モンゴル草原における遊牧から定住への社会変遷と日本への影響」

吉田 剛司氏(酪農学園大学)「既存体制では対応できない野生動物対策:野生動物問題の代表格エゾシカの事例」

荒木 和秋氏(酪農学園大学)「北海道酪農における共生と循環」

植木(永松)美希氏(日本獣医生命科学大学)「畜産をめぐる新しい潮流:日本とEUのアニマルウェルフェア」

星野氏と吉田氏からは、各々、モンゴル草原と北海道での動物数増加に伴う自然生態環境の悪化およびその人間社会に対する影響に関する報告がなされました。星野報告では衛星(GPS)追跡観測から明らかになった家畜の行動パターンと、さらにその結果から定住化・舎飼が必ずしも砂漠化防止につながるという示唆が提示されました、吉田報告では、現在、エゾシカの頭数増加による北海道各地での被害の現状および酪農学園大学で取り組まれているエゾシカ頭数管理の具体的対策等に関する状況が説明されました。

荒木氏と植木氏からは、北海道酪農の現状と課題、現在のアニマルウェルフェアの展開に関して、主に畜産業の観点から報告されました。荒木報告ではニュージーランドの経験を参考にした草地の有効利用による低コスト牛乳生産に向けた方策、植木報告ではアニマルウェルフェアの歴史的変遷の概観が示された後、先進的な取り組みが行われているEUのアニマルウェルフェア施策と市場の動向及び日本における現状と課題について報告がなされました。

報告に引き続き、野生動物と人間との共生、動物の福祉、家畜に関する倫理的問題、今後の畜産業の行方、等に関して、活発な議論が行われました。

2日目は午前中にA・Bの2会場において、環境学・経済学・社会学・環境倫理学・農業経済学などの領域に関する11本の報告が行われました。A会場では、中国及びモンゴル国における草原劣化に起因する問題、外国人技能実習制度、共生の経済学、稲発酵粗飼料流通など、自然と人間の共生や経済取引において生ずる共生に関する6報告が、またB会場では、人間社会での共生、文化的・生業的側面からみた共生に関する5報告が行われました。

2日目の午後に行われたエクスカージョンでは、荒木会員と吉岡会員（ともに酪農学園大学）の案内で、レイモンド・エップ氏・荒谷明子氏が経営する農場・メノビレッジ（夕張郡長沼町）を訪問しました。エップ氏・荒谷氏ご夫婦は、現在、札幌や江別在住の市民とCSA連携を結び有機農による米・野菜の生産およびナタネ油等の加工品製造・直売を行っています。また長年、国内外から研修生を広く受け入れてきた実績をお持ちです。CSAの展開、農場経営の現状と課題、今後の経営意向などに関する聴き取りと農場内施設視察を行いました。長沼町・仲野農園の直営レストラン・ハーベストでの美味しい昼食を含め、参加者全員が大満足のエクスカージョンとなりました。

また、初日のシンポジウムの前に、理事会と総会が開催されました。今期は理事改選にあたり、会長に尾関周二会員（東京農工大学）、副会長に木村光伸会員（名古屋学院大学）、古沢広祐会員（國學院大学）、矢口芳生会員（農政調査委員会）の3名が選出されました。なお、新役員体制については、本ニュースレターの最終ページをご参照ください。

2. 第1回「運営委員会」の開催と議事内容の報告

第1回運営委員会が9月3日（水）に開催されました。尾関会長以下、学会新役員体制で初となった今回の運営委員会の主な議事内容は以下のとおりです。

- 1) 本年度学会運営体制の確認について（本ニュースレターの最終ページ）
- 2) 長野前会長の名誉会員推薦について

長野前会長への名誉会員の授与が承認された。学会会則（第3章第4条四）に従えば、総会での承認が必要となるが、時期を考慮すると早めに授与すべきという意見に収束され、理事の承認（メール審議）を経て年内には決定し、来年の総会では事後承認頂く手順とする旨、決定された。

- 3) 本年度学会事業計画について

ア) 「学会設立10周年記念事業実行委員会」の設立

「学会設立10周年記念事業実行委員会」（以下、「実行委員会」）を発足することが承認された。委員は以下のとおり。

実行委員長：矢口 芳生

事務局担当：千年 篤、吉田 央（正副運営委員長）

記念誌担当：岡野 一郎、武田 庄平（正副編集委員長）、福田 恵（東京農工大学）、澤 佳成（東京農工大学）

会員拡大担当：榎本 弘行（東京農工大学）、桑原 考史（日本獣医生命科学大）

なお、実行委員会は役員改選があっても2016年度大会までは継続とする。

イ) 2015年度・2016年度・2017年度大会について

2015年度大会は7月4日（土）または11日（土）を候補日として、会場は早稲田大学高田馬場キャンパスを第1候補として早稲田大学・柏雅之会員に開催受入について打診する（9月6日付で快諾を得た）。大会シンポジウムのテーマとしてグリーン経済が提案されたが、テーマは今後、開催校の意向を優先して決定する。

学会設立 10 周年となる 2016 年度大会は 10 月 1 日（土）・2 日（日）を第 1 候補日として東京農工大学で開催する。大会企画立案については、「実行委員会」でたたき台を作成し、それをもとに運営委員会で審議していく手順を進める。

また、2017 年度大会は名古屋学院大を開催校として、シンポジウムのテーマ候補は異文化共生、多文化共生、等である。さらに、会員拡大を念頭において、今後、関西での大会開催についても検討する。

ウ) 学会設立 10 周年記念誌出版事業について

設立 10 周年記念事業の目玉として共生社会システム学の枠組みを示す記念出版物を学会編で発行する企画が承認された。内容については、「共生と共生社会」、「環境と自然」、「政治と経済」、「政治と経済」の 4 テーマからの編成とすることが決定された。この案に沿って「実行委員会」にて具体的な企画の検討を進めていくことになった。次回の運営委員会において実行委員会立案の企画内容を確認する。

エ) 会員倍増計画について

「学会設立 10 周年記念事業」の一環で、「会員倍増計画」（実際には 1.5 倍増）を実施する旨、提案され、その具体的方策について議論された。会員倍増計画自体については特に異論がなかったが、今後の具体策については、「実行委員会」にて検討していくことになった。

4) 学会ニュースレターの復刊

学会事務局（千年運営委員長、吉田運営副委員長担当）で学会ニュースレターを復刊する。年 4 回発行を原則とし、新体制での第 1 回目のニュースレターは 10 月に発行する。

5) 学会 HP の充実について

学会 HP の充実を図っていくことが確認された。

6) 編集委員会からの報告

岡野編集委員長より、学会誌査読の状況について報告された。本学会は「共生」理念の学術的探究を目的としており、この目的に合致しない論文等は学会誌に掲載されない旨、周知徹底する必要があることが確認された。

7) その他

ア) 2014 年度大会（大会関係および懇親会関係）の会計決算について

運営委員長より、2014 年度大会（2014 年 8 月 1・2 日）の会計決算について報告され、開催校の酪農学園大学のご尽力・ご支援により、余剰金が出たことが報告された。余剰金（64,836 円）については、学会一般会計に繰り入れることが承認された。

イ) 次回運営委員会

日時：2014 年 12 月 20 日（土）14：00～17：00

場所：東京農工大学府中キャンパス

3. 第 1 回「学会設立 10 周年記念事業実行委員会」の開催

1) 実行委員会委員の承認と役割分担

実行委員会体制は、運営委員会で決定されたとおりの体制とする旨、承認された。加えて、各事業の担当責任者を記念誌は岡野会員、会員拡大は榎本会員とすることが決定された。

2) 学会設立 10 周年記念誌出版事業について

ア) 「共生社会システム学」の枠組みを示す記念出版物を監修・編集責任で企画・発行する。学会誌の別冊などではなく、独立した刊行物とする。出版社（農林統計出版）の企画案をベースに以下のとおり全体企画案（上下 2 巻、2016 年 10 月発行）を決定した。

監修者： 尾関 周二、矢口 芳生

編集責任者： 上巻＝亀山 純生、木村 光伸、 下巻＝古沢 広祐、岡野 一郎

編集担当者：

上巻 1. 「共生と共生社会」 亀山 純生、尾関 周二、矢口 芳生

2. 「環境と自然」 木村 光伸、武田 庄平、津谷 好人

下巻 3. 「政治と経済」 古沢 広祐、榎本 弘行、中川 光弘

4. 「社会と文化」 岡野 一郎、河路 由佳、柏 雅之

尾関、矢口、亀山、木村、古沢、岡野、武田、福田、澤、稲村で編集責任者会議を組織する。編集責任者会議の主宰者は岡野会員とする。第1回編集責任者会議を11月中に開催する。

イ) 出版・執筆要領

原稿の締め切りを2016年1月末とし、完成原稿で2016年3月末の提出とする。

各巻600枚(1枚400字)≒300ページ程度、定価3,500円(税別)を予定。各巻の執筆者数は12~18名程度(各人40枚ならば18名程度、60枚ならば12名)。

3) 会員倍増計画について

「200名→350名以上」、「2016年大会までに200名→280名」を了承した後、榎本会員(主)、桑原会員(副)に、千年会員、吉田会員を加えた体制で具体的な対策を検討していく旨、決定された。また、会員拡大の方策について意見交換がなされ、以下の案が提起された。

ア) 学会の知名度を上げる。そのため時宜に応じたイベントの開催、学会声明等を出す。

イ) 学会誌の電子化、ウェブページでの論文公開を行う。さらに学会誌を年2回発行にして論文掲載を増やす。

ウ) 新パンフレットを作成する。

エ) 退会者を減少させるため、学生会員が大学院卒業後に退会しないようフォローする。

オ) 酪農学園大学での大会開催が会員増につながった経験を活かして、今後の開催候補大学である早稲田大会・名古屋学院大大会の会員増を図る。

カ) 学会ホームページの充実には業者委託も検討する必要がある。まずはホームページの担当者である成美大学・中尾 誠二会員と協議する。

キ) 「共生」を理念として掲げる大学の関係者とコンタクトをとり、入会を働きかける。

ク) 大会で積極的に新しいテーマを発掘し、できれば論文でも複数のテーマを取り上げる。

ケ) 会員拡大担当者会議で具体案を検討後、「実行委員会」で審議しつつも、可能な方策から実行に移す。

4) その他

次回実行委員会：

日時：2014年12月7日(日) 13:00~16:00

場所：東京農工大学府中キャンパス

議案：記念誌・編集責任者会議及び会員拡大担当者会議からの報告、2016年大会企画、等。

4. 『共生社会システム研究』第9号への投稿募集

『共生社会システム研究』Vol. 9 投稿原稿を募集しますので、ふるって投稿下さい。締切日は11月4日(火)です。締切日を超えた投稿については、原則、次巻(Vol. 10)掲載の原稿として取り扱いますので、あらかじめご承知おき下さい。

投稿規程、執筆要領をよく読んで原稿を作成して下さい。

原稿の送り先：

〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16 東京農工大学工学部電気電子工学科

『共生社会システム研究』編集委員長 岡野一郎 E-mail: i-okano@cc.tuat.ac.jp

5. 運営委員会事務局だより

新役員体制のもと、本学会ニュースレターの復刊が決定され、本ニュースレターが復刊第1号になります。今後、定期的に学会の活動状況をお知らせしていく予定ですので、よろしくお願い申し上げます。つきましては、ニュースレター掲載の原稿を随時、募集いたします。会員皆さまからの積極的な投稿を期待しております。

「共生社会システム学会」は、2006年10月7日に東京農工大学府中キャンパスにおいて学会設立大会が開催され、以来、学会活動を継続しています。2014年9月時点の会員数は230名（団体含む）です。会長は、小原 秀雄氏（2006～2009年度）、長野 敬氏（2010～2013年度）が歴任し、本文でも紹介しましたとおり、現在、尾関 周二氏がその任にあります。

2年後の2016年10月に学会設立10周年を迎えます。新役員体制では、学会設立10周年記念事業を今後2年間の学会事業の核に据えて精力的に取り組んでいくことが、9月3日に開催されました第1回運営委員会で決定されました。矢口 芳生副会長を実行委員長とする「学会設立10周年記念事業実行委員会」が正式に組織され、記念事業の具体的な企画の検討が開始されました。詳細につきましては、本ニュースレターの本文を是非ご一読頂ければと思います。

最後に、ニュースレター復刊を機に、会員の方々に本学会の目的を再度ご認識頂きたいという思いを込めまして、本学会の目的を以下、掲載いたします。皆さまにおかれましては、学会設立当時の趣意をお心止め頂き、今後の学会の発展に益々ご貢献頂きますようお願い申し上げます。

『本学会は、理論と実践の相互交流のなかで理論を鍛え、実践を合理的なものにし、共生持続可能な社会の実現に貢献することを目的とする。「持続可能性」、「コミュニケーション」などの概念や「農」の摂理を踏まえ、人文社会科学の今日の総合的視点を「共生」と定位し、そこから共生持続社会の構築に必要な問題の解明と現状分析方法の確立、問題の解決方策の定立を目指す。つまり、「人と自然」、「人と人」で成り立つ社会のあり方を「共生」の視点から体系的に把握・認識し、またその成果を実践に役立てることが出来る「共生社会システム学」の構築である。』

会費納入のお願い

まだ2014年度会費を納入していない会員におかれましては、至急会費を納入していただきますようお願い申し上げます。会費は、一般会員6,000円、学生会員3,000円、賛助会員20,000円となっております。よろしくお願い申し上げます。

共生社会システム学会ニュースレター 第11号 2014年10月28日発行

編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局

連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学農学研究院 千年篤研究室 気付

TEL: 042-367-5687 E-Mail: chitose@cc.tuat.ac.jp

郵便振替 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会

役員名簿（2014年8月～2016年7月）

	氏名	担当	所属
1	尾関 周二	会長	東京農工大学
2	木村 光伸	副会長	名古屋学院大学
3	古沢 広祐	副会長	國學院大学
4	矢口 芳生	副会長	農政調査委員会
5	千年 篤	運営委員長	東京農工大学
6	吉田 央	運営副委員長	東京農工大学
7	岡野 一郎	編集委員長	東京農工大学
8	武田 庄平	編集副委員長	東京農工大学
9	秋山 満	理事	宇都宮大学
10	朝岡 幸彦		東京農工大学
11	新井 祥穂		東京農工大学
12	荒木 和秋		酪農学園大学
13	上野 吉一		名古屋市東山動植物公園
14	オプヒュルス 鹿島ライノルト		上智大学
15	柏 雅之		早稲田大学
16	亀山 純生		東京農工大学
17	河路 由佳		東京外国語大学
18	北野 収		獨協大学
19	島崎 隆		一橋大学
20	清水 本裕		東京農工大学
21	竹村 牧男		東洋大学
22	種村 完司		鹿児島大学
23	津谷 好人		宇都宮大学
24	中尾 誠二		成美大学
25	中川 光弘		茨城大学
26	星 勉		JC 総合研究所
27	山崎 亮一	監事	東京農工大学
28	桑原 考史	監事	日本獣医生命科学大学